2001年及び2002年の日本語研修コースの評価について

留学生センター　和　田　礼　子

1　はじめに

日本語研修コースでは「中間評価」と「最終評価」として学生による授業評価（アンケート形式）をおこなっている。中間評価は開講後１ヶ月程度経過した時点で行い、その後のコース運営の参考にしている。最終評価はコース修了時に行っており、どちらも授業の方法や進度、使用教材についてアンケート用紙に無記名で記入してもらっている。

また、コースの途中で実施するオープンクラス（コース中に一週間程度の期間を限定し、在籍学生の指導教官や、「日本語教授法」を履修する教育学部の学生、さらには学内外で、留学生教育や国際交流に関心のある人に広く授業を公開している）の際、簡単なアンケートに答えてもらっている。今回はこれを第３者評価として位置付けた。

この報告では２年４期にわたる、これらの評価の資料を分析、考察していきたい。考察に際して以下に２年４期の学生の数、身分を示す。受講学生の国籍、氏名については本報告の末尾に付す。

	2001年前期	2001年後期	2002年前期	2002年後期
大使館推薦国費研究留学生	10(2)	1 (1)	8 (1)	5 (5)
大学推薦国費研究留学生		1		5
国費教員研修生		3 (1)		
短期留学生		4		5
県費留学生			1	
私費研究生	1			
その他		2		
計	11	11	9	15

＊(　)は日本語予備教育修了後、他大学に配置された学生の数を内数で示す。

2　学生による授業評価について

2－1　2001年前期

2001年前期は中間評価と最終評価の評価項目が共通のものが多く、ここでは各項目の評価の推移について述べる。

・「全体」についての評価

	中間評価	最終評価
評価５（とてもよい）	４人	７人
評価４（よい）	５人	３人
評価３（ふつう）	１人	０人
評価２（あまりよくない）	０人	０人
評価１（よくない）	０人	０人
合計	10人	10人

・「会話練習」についての評価

	中間評価	最終評価
評価５（とてもよい）	４人	５人
評価４（よい）	１人	３人
評価３（ふつう）	４人	２人
評価２（あまりよくない）	１人	０人
評価１（よくない）	０人	０人
合計	10人	10人

・「応用練習」についての評価

	中間評価	最終評価
評価５（とてもよい）	２人	４人
評価４（よい）	４人	５人
評価３（ふつう）	４人	１人
評価２（あまりよくない）	０人	０人
評価１（よくない）	０人	０人
合計	10人	10人

・「文法説明」についての評価

	中間評価	最終評価
評価５（とてもよい）	５人	６人
評価４（よい）	４人	３人
評価３（ふつう）	１人	１人
評価２（あまりよくない）	０人	０人
評価１（よくない）	０人	０人
合計	10人	10人

各評価項目とも中間評価から最終評価を見ると評価はあがっており、中間評価後授業が改善されたと見ることができる。

・「授業を進めるペース」について（最終評価）

	とてもはやい	少しはやい	ふつう	少しおそい	合計
授業を進めるペース	１人	３人	３人	２人	10人

この項目は中間評価では項目としては取り上げなかったが、中間評価のコメントに「授業のスピードがはやい」という記述がいくつか見られた。授業のペースについては学生の間で意見が分かれた。個人差がある以上、全ての学生に適度なスピードというのは難しいが、できるだけ学生の声を聞いていきたいと思う。

2－2　2001年後期～2002年後期

2001年後期以降は最終評価の評価項目を見直し、「教え方」「教材」「生活に役立つ」などについて聞いている。2001年後期以降、中間評価は少ない項目立てで自由記述の部分を多く設けることで学生個々の問題を汲み取ることに努め、最終評価では項目を増やして、多角的な評価が得られるよう配慮した。

以下、３期分の評価を項目ごとにまとめて記す。

・「全体」についての評価（数字は回答数）

	2001年後期		2002年前期		2002年後期	
	中間	最終	中間	最終	中間	最終
評価５（とてもよい）	4	3	5	3	10	11
評価４（よい）	6	6	1	4	4	2
評価３（ふつう）	1	0	2	0	1	0
評価２（あまりよくない）	0	0	0	0	0	0
評価１（よくない）	0	0	0	0	0	0
合計	11	9	8	7	15	13

最終評価の際大学院入試などで欠席した学生がいるため中間評価と最終評価で回答総数が異なっている期がある。これを見るとほとんどの学生がコースを肯定的に評価しており、否定的な評価（評価１、評価２）をする学生は、中間評価、最終評価を通して皆無であった。

・「教え方」についての評価（数字は回答数）

	2001年 後期最終	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（とてもよい）	4	3	9
評価４（よい）	5	3	4
評価３（ふつう）	0	1	0
評価２（あまりよくない）	0	0	0
評価１（よくない）	0	0	0
合計	9	7	13

・「教材」についての評価（数字は回答数）

	2001年 後期最終	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（とてもよい）	5	5	11
評価４（よい）	4	2	2
評価３（ふつう）	0	0	0
評価２（あまりよくない）	0	0	0
評価１（よくない）	0	0	0
合計	9	7	13

教材は2001年後期は主教材として『新日本語の基礎１』『新日本語の基礎２』を使用したが2002年は前期、後期とも『みんなの日本語初級１』『みんなの日本語初級２』を使用した。『新日本語の基礎』は文法解説と語彙リストが10か国語に対応しており、英語を使っての学習が難しい学習者にとって便利な教材である。しかし『新日本語の基礎』は技術研修生のための日本語習得を目指して作られた教科書であるため語彙が大学生活とかけはなれたものも多かった。このため、訳語の種類は少

ないが一般を対象に作られた『みんなの日本語』に切り替えた。学生の評価は2001年より2002年の方が若干よくなっている。副教材としてテープ、ビデオ、教科書準拠の問題集などを使用した。学生のコメントには「ビデオがとても役に立った」「視聴覚教材は語学学習にとてもよい」といった意見が見られた。

・「生活で使えるようになった」かどうかについての評価（数字は回答数）

	2001年 後期最終	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（よく使えるようになった）	3	1	4
評価４（少し使えるようになった）	4	3	5
評価３	2	3	4
評価２（あまり使えない）	0	0	0
評価１（ぜんぜん使えない）	0	0	0
合計	9	7	13

他の項目に比べると評価３の割合が高く、今後の見直しが必要な項目であると考えている。学習した日本語が使えるかどうかは、どのような表現を学んだかという「教授内容」に関わる問題と、知識ではなく実際に使うための練習を行ったかという「教授法」に関わる問題とがあり、両方の面からの検討が必要である。

・「日本や日本人について理解できるようになった」（数字は回答数）

	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（よく理解できる）	3	3
評価４（少し理解できる）	4	8
評価３	0	1
評価２（あまり理解できない）	0	0
評価１（ぜんぜん理解できない）	0	0
合計	7	12

日本事情的要素は授業の中で折に触れ適宜取り入れている。特に文化的な要因で言語形式が左右されるような項目についてはその背景となる日本人の考え方も紹介している。

・「授業のスピード」について（数字は回答数）

	2001年後期		2002年前期		2002年後期	
	中間	最終	中間	最終	中間	最終
とてもはやい		3	5	5	5	4
少しはやい		5	2	1	8	5
ふつう		1	1	1	2	4
少しおそい		0	0	0	0	0
とてもおそい		0	0	0	0	0
		9	8	7	15	13

授業のスピードがはやいと感じている学生はかなり多い。自由記述のコメントに見られる問題点の多くは授業の進むスピードに関するものである。しかし「はやい」と感じている学生も「全体」に対する評価は悪くはないため、「はやい」＝不満というわけではなさそうだ。対策としてスケジュールの立て方を工夫したり学習量を一部減らすなど試みているが、集中コースの性格上極端なペースダウンは難しいと思われる。

・「学習量」についての評価（数字は回答数）

	2001年 後期最終	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（とても多い）	2	3	4
評価４（少し多い）	4	3	8
評価３（ふつう）	3	1	1
評価２（少し少ない）	0	0	0
評価１（とても少ない）	0	0	0
合計	9	7	13

自由記述のコメントに「毎日覚えなければならないことが多い」という意見が見られるが、これも「授業のペース」と同様に「とても多い」と感じている学生の「全体」に対する評価は悪くない。

・「授業時間」についての評価（数字は回答数）

	2001年 後期最終	2002年 前期最終	2002年 後期最終
評価５（とても多い）	3	6	6
評価４（少し多い）	5	1	6
評価３（ふつう）	1	0	1
評価２（少し少ない）	0	0	0
評価１（とても少ない）	0	0	0
合計	9	7	13

このコースは週に14コマの授業を行っているが、学生は自宅でも宿題や予習復習、テスト、スピーチの準備に追われるため「時間がない」という印象を持っているようだ。

しかし中には「授業の期間をもう少し延ばしてほしい」という声も聞かれる。特にコース修了間際、研究室へ配置される前になって日本語の面で不安をおぼえ、期間の延長を望む学生がいる。学生によって日本語の必要度は異なるため、そのような学生に対しては日本語補講等で長期休暇中に開講されるクラスを紹介している。

・「コメント」に見られた意見（英語による記述）

・授業のペースがはやいので覚える前に先に進んでしまう。

・日本人と会話をする場面を作ってほしい。

・（自分でも）短い期間に本当にうまくなったと思う。

・すばらしい先生たちに教えてもらい感謝している。このコースを作った大学にも感謝している。

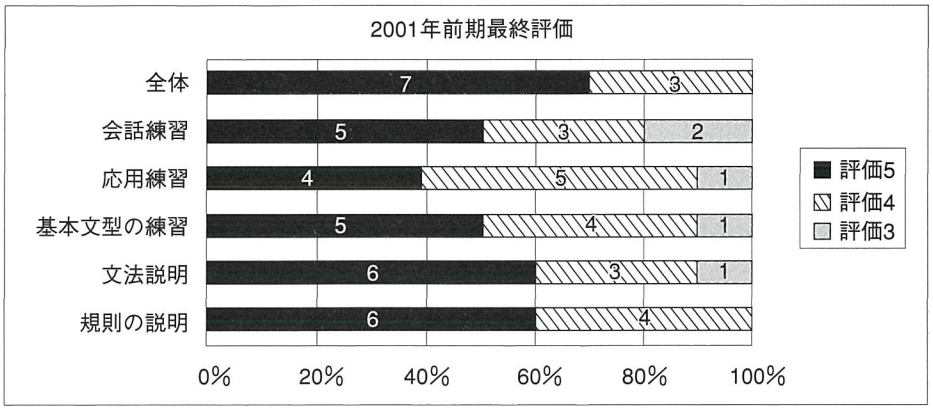
・自分は研究も英語で行うし、生活も友人の助けを借りたりして何とかできるので、なぜ日本語を学ばなければならないのかよくわからない。
・ビデオやテープの教材で実用的な日本語を学ぶことができた。
・会話の時間をもっと増やしてほしい。
・はじめて日本に来た時、一番の問題はことばの問題だった。日本語研修で、いろんなことができるようになった。
・よく考えられたコースだ。先生はいいが、時間が唯一の問題。学生がよく理解するためには時間が足りない。時間がないから頭が混乱する。でも全ては適切に準備されています。私は心からありがとうと言いたい。

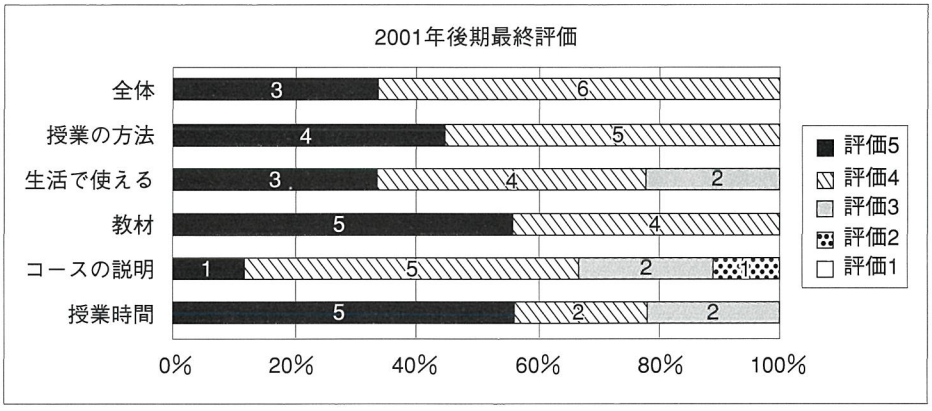
2－3 「学生による評価」まとめ

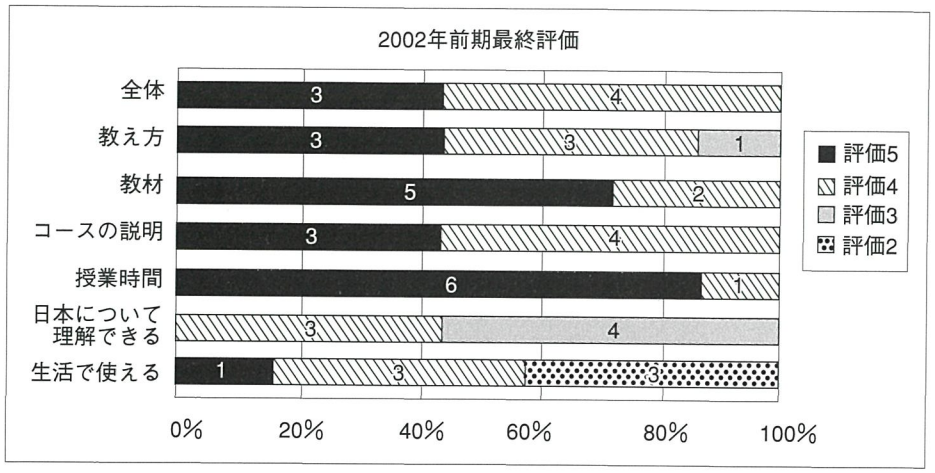
学生による評価を見てきたが、どの項目についても評価１、評価２といった否定的な評価はなく、学生はこのコースを好意的に受け入れている事がわかる。このことからこのコースが開講当初から修了まで一定の水準を保っており、とりあえずは緊急に改善すべき極めて深刻な問題は存在しないとみなすことができる。

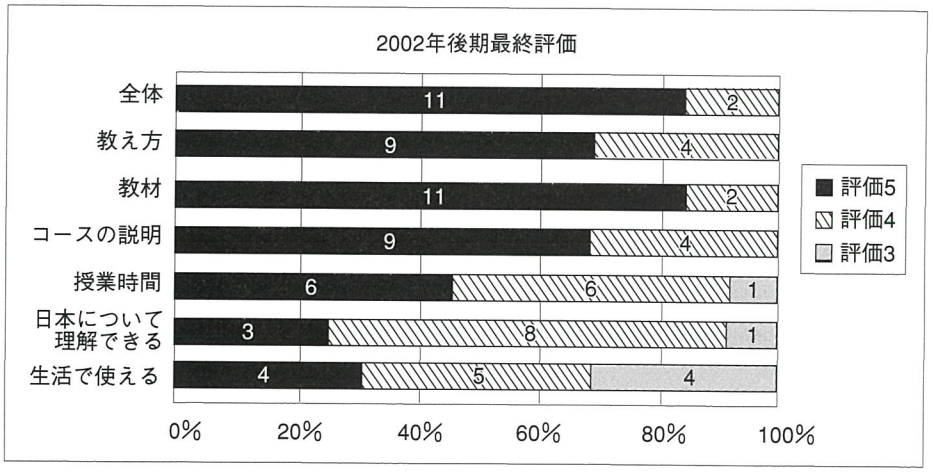
しかし、日本語の教授内容や、教授法、また学生の受け入れ、進路、生活面等の指導体制など、改善すべき点も強く認識しており、このような評価に満足することなくより一層の充実を図っていきたい。

参考として期ごとの評価を以下にまとめて示す。









3　第3者評価

研修コースではコース中の1週間をオープンクラスとして、授業を公開している。2001年前期は研修コースに在籍する学生の指導教官ならびに留学生センター運営委員を対象に通常の授業を参観してもらった。2001年後期以降はこれに加えて教育学部の授業「日本語教授法」を受講している学生、2002年前期からは学内にポスターを掲示し、日本語教育に関心のある日本人学生にも授業を公開している。2001年後期からは公開授業にあわせてスピーチウィークを実施しており、公開授業は次のような時間配分で行っている。

期間：1週間を通して毎日1コマ（合計5コマ）を公開授業とする。

時間配分：1コマ90分の内、60分は通常の授業を行う。残りの30分は2名から3名の学生の「私の国」と題した短いスピーチを聞き、質疑応答を行う。

この授業を参観した人に簡単な授業評価を行ってもらい、この資料をまとめた。

・「授業の進め方」についての評価（数字は回答数）

	2001年前期	2001年後期	2002年前期	2002年後期
評価５（とてもよい）	4	8	9	11
評価４	2	2	6	6
評価３	0	0	0	0
評価２	0	0	0	1
評価１（よくない）	0	0	0	0
合計	6	10	15	18

・「学生の質問に対する対応」についての評価

	2001年前期	2001年後期	2002年前期	2002年後期
評価５（とてもよい）	4	8	12	9
評価４	2	2	3	7
評価３	0	0	0	2
評価２	0	0	0	0
評価１（よくない）	0	0	0	0
合計	6	10	15	18

教師についての評価を見るとほとんどが「５」か「４」といった評価を得ている。2002年後期の「２」と評価した参観者からは「内容が濃かったのか盛りだくさんの感があり聞くのが大変でした」というコメントが得られた。同じ授業を参観し「５」と評価した別の参観者は「学習者の方たちが積極的でレベルの高いのに感心しました。先生と生徒のコミュニケーションがとてもよくとれていて楽しく授業を聞くことができました」とコメントしている。同じ授業に対しても参観者によって評価が大きく分かれているが、このように多様な参観者からの評価を今後も多く得たいと思う。自由記述の欄には以下のようなコメントが得られた。

・むずかしい内容にもかかわらずたくさんの例を用いて平易に教えておられるのに感心いたしました。

・先生と学生のコミュニケーションが活発でいろんな技能を使って授業が進められていた。

・板書だけでなく会話、会話だけでなくその中に様々な動き（電気を消す、窓、カーテンの開け閉め）が入っていて体験して学ぶコミュニカティブな授業というものを初めて見たような気がします。

・先生の授業の進め方も単語ひとつから話題を広げたり、留学生に出身国のことを尋ね話しやすい話題で日本語を使わせたりと内容を教科書だけに限らず、楽しく日本語に触れられ、とても良かったと思う。

・教えることはやはり難しいのだなと痛感しました。

・クラスの雰囲気

	2001年 前期	2001年 後期	2002年 前期	2002年 後期
評価５（とてもよい）	6	9	15	15
評価４	0	1	0	2
評価３	0	0	0	1
評価２	0	0	0	0
評価１（よくない）	0	0	0	0
合計	6	10	15	18

クラスの雰囲気については以下のようなコメントが得られた。

・自由に発言できる雰囲気ができていて非常に効率よく楽しく授業が進められている。

・学生の発言も多くて笑いのたえない楽しい授業でした。

・受講生のみなさんがわからないところがあったらその場で質問したり自分から日本語を言ったりとその積極的な姿勢と授業の雰囲気のよさをたいへん素晴らしく感じました。

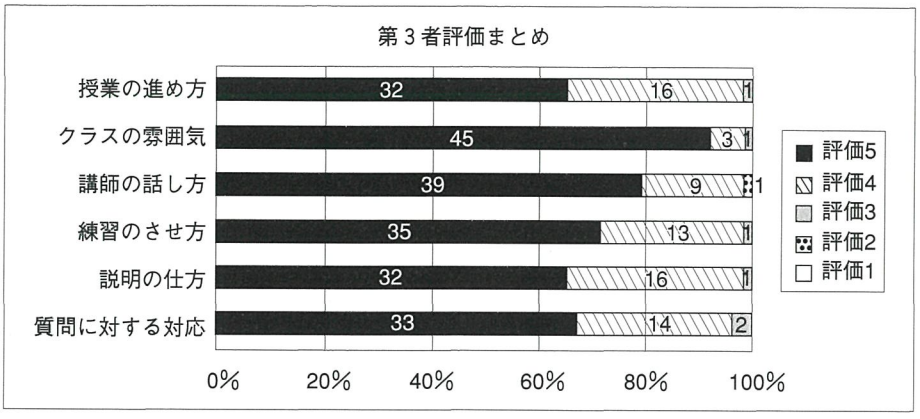
・生徒が下（テキスト）を見るのではなく頭をあげて授業をうけているところが日本の英語教育とのちがいかな・・・と思いました。

また、他に全体的な感想に以下のようなものがあった。

・授業の理解度が一様でないのが気になりました。

・授業見学を通して様々な国の文化に接することができ、私自身とても楽しかったです。

４期分の第３者評価を以下のグラフにまとめてみた。質問の項目は「授業の進め方」「クラスの雰囲気」「講師の話し方はわかりやすかったか」「練習のさせ方」「説明の仕方」「学習者の質問に対する対応」の６項目で、他に自由に意見を書いてもらう欄を設けた。



日本人学生や指導教官への授業公開は今後も続けていきたい。第３者評価の方法については今後検討が必要であると感じており、例えば授業見学後、授業について観察者と教師とが話し合うという場を設けることも必要であると考える。見学した授業が何を目的とした授業か（具体的には項目の導入、練習、応用のどの部分にあたるのか）を明確にし、全体のカリキュラムのどの位置にあるのかという情報も、評価者に示していく必要がある。

4　まとめ

以上、２年、４期にわたる日本語研修コースについて学習者による授業評価と授業観察者による評価についてまとめてきたが、どちらもよい評価を得ていることが数値的に明らかになっている。今後もこのような評価は積極的に行っていくつもりであるが、評価の方法も含めてコース全体を常に見直していくという姿勢で臨みたいと考えている。

《資料》2001年度受講生名簿

2001年度前期受講生

	氏名・国籍			配置大学・学部
1	TANCHAROEN SALUMYA タイ	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大歯学部
2	GOMEZ TAGLE MARALES, JOSE MARTIN メキシコ	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大工学部
3	LONDONO EDGARDO コロンビア	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
4	MIAGAO MA. SHIRLEY LAMBERTO フィリピン	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
5	ALCANTARA LOTA BALUARTE フィリピン	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
6	TOME MARIA ELENA PAKIDING フィリピン	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大農学部
7	UYAN ORHAN トルコ	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大水産学部
8	HAFEEZUR, REHMAN パキスタン	男	大使館推薦国費研究留学生	鹿大理学部
9	BAEZA, GUSTAVO, EONEL ガテマラ	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大農学部
10	GYIMAH, LICHARD ガーナ	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大農学部
11	FUDA IZZAT OMAR ヨルダン	女	私費大学院生	鹿大工学部

2001年度後期受講生

	氏名・国籍			配置大学・学部
1	TANCHAROEN SALUMYA タイ	女	大使館推薦国費研究留学生	鹿大歯学部
2	GEDEKILE HARRISON ソロモン諸島	男	大学推薦国費研究留学生	鹿大工学部
3	TUAL CIN KHA ミャンマー	男	大使館推薦国費研究留学生	宮崎大学農学部
4	ALI UPRI インドネシア	男	国費教員研修生	鹿大教育学部
5	HERRERA EDUARDO アルゼンチン	男	国費教員研修生	鹿大教育学部
6	TIN MOE MOE MYINT ミャンマー	女	国費教員研修生	宮崎大学教育学部
7	RIZTYAN インドネシア	男	短期留学生	鹿大農学部
8	HOSSEA DUNSTAN MTUI タンザニア	男	短期留学生	鹿大農学部
9	GEORGE MSALYA タンザニア	男	短期留学生	鹿大農学部
10	ABDULSUDI ISSA タンザニア	男	短期留学生	鹿大農学部
11	NGUYEN TAT THANG ベトナム	男	JAICA 研究生	鹿大農学部

2002年度の学生の情報については本報告書の「平成14(2002) 年度日本語研修コース報告」を参照ください。